

座談会

ITコーディネーターが真の経営パートナーになるには?

活動の成果と課題を展望する



経営者の立場に立つて経営とITの橋渡しをする人材を育てるべく創設されたITコーディネーター資格制度。資格取得者は6000人を超え、コンサルタントとして、またITベンダーの社員として、そのスキルを活かして活動が続いている。なかでも中小企業経営者が一番身近に感じるのは、独立した立場でIT導入を支援するITコーディネーターであろう。今回は、ITLP(有限責任事業組合)を立ち上げた、大阪、北海道、首都圏で活躍する3名のITコーディネーターに、活動実態と課題、今後の展望を議論していただいた。(文中敬称略)

出席者

有限責任事業組合ITC-Labo. 理事長 川端一輝氏
ITC札幌有限責任事業組合 副会長 佐々木身智子氏
千葉IT経営支援有限責任事業組合 理事長 野村真実氏

佐々木 社長がITコー

ディネーターの存在をうまく使い分けられていると、「パートナーとして見てくださっているのかな」と感じますね。あるときは社長と若い世代の間を埋める社員としての役割。また別の場面では第三者として社員の方々に改革の必要性を説明する役割であったり。その時々

——まずは皆さんのお立場と、企業経営者との接点をどう作られているのかをお聞かせください。

組織としてITLPの形態を選びました。

川端 大阪で運営しているITコーディネーターの組織「ITC-Loa bo」を、一昨年ITLPとし、質の高いサービスの提供に努めています。最近ではIT経営応援隊事業の経営者研修会や中小企業金融公庫と連携した研修会などで経営戦略立案をサポートし、その後、個別契約を結んでIT導入までお手伝いするケースが増えていきます。

以前はITベンダーに勤務し金融機関のシステムに携わっていました。金融機関の皆様は、その先のお客様である企業の経営改革を支援するスキームを提供するべく、ITコーディネーターやIT経営応援隊活動などをご紹介し、運営のお手伝いなどを通じてバックアップしてきました。

ITコーディネーターという職業の領域は?

——経営者の方にITコーディネーターの価値を認めてもらったと感じるのはどのような場面ですか。

野村 私は5月に独立したばかりです。サービス品質を担保できる

佐々木 私は札幌のITベンダーに勤務し、お客様企業にコンサルティンクサービスを提供していました。今年5月からはITコーディ

——経営者の方にITコーディネーターの価値を認めてもらったと感じるのはどのような場面ですか。



「顔」を求められるのは、具体的な利用価値を見出してくださっている証だと思います。

川端 一番喜ばれるのは経営者の頭の中をコーディネートすることです。